

大向地区の催し

川口 ひろ子

大向地区の催しに参加した。会場は住まい近くの大向交流センター。大向はかつてのこの地区の名称で、現在の東急百貨店本店通り一帯のことを指す。その東急本店も今年一月末に営業を終了した。そこで、近辺の町内会、商店会の皆さんが地区の賑わいがいつきになくなるのを恐れて立ち上がった。東京都の地域発展事業の助成対象となり、今後様々な取り組みを行ってゆくようだ。活動の第一歩がこの夜開催された日本舞踊を楽しむ会で、出演は現役円山芸者の小糸姐さんだ。円山町は大向の隣町、花柳界の繁栄ぶりは昔から多くの文学作品に語られている。しかし驚いたことに現在此処で営業する芸者は何と小糸姐さん一人になったという。性格円満な三十歳代半ばのOL風、もう少し競争の激しい世界に居たら、迫力ある、周囲を圧倒するような気性が容姿に現れるだろうに……。おばさんはいふ余計なことを考える。しかし、今風の小顔にきりっとした着物は清潔感に溢れ好感度抜群だ。三味線、お囃子奏者を従えて「夜桜」「梅は咲いたか」等、端唄十曲程を踊ってくれた。そして締めは「奴さん」だ。「アーコリヤコリヤ」と奴さんの飄軽な身振りを大げさに表現、太鼓も参加して陽気なお座敷芸が展開する。三十人程の参加者はすっかり乗せられて大喜びだ。

子供の頃親の好みで三味線の稽古に通った。勘が鈍い劣等生はよくお師匠さんに叱られた。怖いお師匠さんは円山町でも教えているということ。子供の頃からどのような町かと想像していた。残念乍らお稽古は落伍、時代は移り私は邦楽とは離れて行った。八十年後の今年春、街の掲示板でこの催しを見て、訳もなく懐かしさが込上げてきて参加を決めた。

大向地区の皆さんの取り組みが成功し街の活気が戻るか否かはわからない。何れにしても、小糸姐さんのような若い人は、結果のことは考えずに激しい時代の変化の中に飛び込んでほしい。修羅場での悪戦苦闘の先には必ず何かが見えてくるはずだ。